

TOPIC (最近の話題から)

■ 体育館・武道場の非構造部材の耐震化について【教育部総務課】

学校施設は、未来を担う子供たちが集い、生き生きと学び活動する場であるとともに、非常災害時には地域住民の避難所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要です。

このことから、本市では、平成26年度までに、すべての小中学校の校舎の耐震化を実施いたしましたが、体育館や武道場などの高所に設置されている照明器具や吊り天井、バスケットゴールなどの非構造部材の耐震化については未実施となっております。

平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震でも、体育館等の天井材が崩落し、生徒が負傷するなどの人身被害が生じたことなどから、非構造部材の耐震化は非常に重要です。

この状況を踏まえ、本市では、平成27年度中に、すべての小中学校の体育館・武道場の非構造部材の耐震化を実施いたします。

耐震化工事期間中は生徒・児童をはじめ、地域の皆様にはご迷惑をおかけすることとなりますが、安全性を確保するための工事ですので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

■ 市立小柳幼稚園が文部科学大臣賞を受賞【教育部学務保健課】

第54回全日本学校歯科保健優良校表彰で小柳幼稚園が優秀賞に選ばれ、同時に文部科学大臣賞を受賞し、平成27年10月29日(木)に長野県長野市で開催された第79回全国学校歯科保健研究大会において表彰式が行われました。

小柳幼稚園では、親子歯科健診や学校給食センターと連携して食育の栄養指導、野菜の栽培と収穫のほか、保護者にご協力いただき月1回の「カミカミおかずデー」などに取組んでいます。このような活動が評価され今回の受賞となりました。

■ 府中の教育を語る会【教育部指導室】

市民の教育に対する関心を高め、子供たちの教育について保護者、地域、学校、教育委員会が共に考える機会として「府中の教育を語る会」を開催します。

◆日時 平成27年11月7日(土)午後2時30分から4時30分まで

◆会場 府中市生涯学習センター講堂 ※参加費は無料です。

◆テーマ 『情報化社会を生きる子供たち-ソーシャルネットワークとの付き合い方-』

◆内容 1 講演「ネット・ケータイのトラブル最新事情とその対応」
～ソーシャルネットワークを中心に～

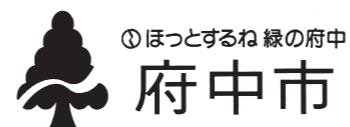
講師 ネット等の性被害根絶等の啓発講演会事務局 平川 貴之 氏

2 発表「情報化社会と学校教育」

府中警察署・市立学校の取組や生徒の声・市生活指導主任会等の取組を発表します。

— 総合教育会議について —

教育委員会制度改革に伴い、市長と教育委員会の連携を強化するため、両者が協議及び調整を行う場として、今年度から総合教育会議が設置されました。この会議は市長が主宰するもので、これまで5月21日(木)・7月16日(木)・9月28日(月)に開催され、府中市の教育に関する大綱(案)、教育委員会における平成28年度施策展開の方向性、放課後子ども総合プランなどについて、市長・教育委員会両者の立場から話し合いが行われました。



教育委員会だより

— 102号 —
(平成27年11月発行)

【編集・発行】 府中市教育委員会事務局
〒183-8703 府中市宮西町2-24 電話 042-335-4012

全ての子供たちの「できる」「分かる」を目指した特別支援教育の推進 — 教育のユニバーサルデザイン化と合理的配慮に向けて —

「障害のある子供も障害のない子供も、全ての子供たちに学習が“できる”“分かる”ようにしたい」

これは、保護者の皆様と教員の願いです。この願いを実現するために、府中市教育委員会では、「府中市特別支援教育推進計画第2次推進計画」を策定し、特別支援教育を推進しています。

計画の基本理念は、障害の有無に関わらず、全ての子供たちが豊かに暮らすことのできる社会の実現を目指すことです。基本理念の実現に向けて学校教育には、全ての子供たちに「できる」「分かる」を目指した教育環境の構築が求められます。また、文部科学省は、中央教育審議会分科会において、障害のある子供と障害のない子供が共に学び共に育つ理念を共有する教育を実現するための基礎的教育環境を変更・調整するなどの「合理的配慮」について提言しています。

府中市教育委員会では、障害の有無に関わらず、全ての子供たちの「できる」「分かる」を目指し、教育のユニバーサルデザイン化と合理的配慮に取り組んでいきます。

学校における「教育のユニバーサルデザイン化」への取組

ユニバーサルデザインとは(ユニバーサルデザインの概念を提唱したロナルド・メイ氏)

障害の有無に関わらずできるだけ多くの人が使えるデザイン

です。私たちの生活を取り巻く様々な場で広まっています。学校教育の場で言い換えますと

多くの子供にとって「分かりやすい・学びやすい・楽しい学び」を提供できる授業や教室環境のデザイン

です。昨年度(平成26年度)、教育のユニバーサルデザイン化をテーマにし、府中市教育委員会研究協力校として研究成果を発表した、府中第二中学校の例からご紹介します。

府中第二中学校の実践

生徒の視点に立った「みんなの教室」を目指して学校全体で次のような取組をしています。

●学びやすさ⇒教室環境の整備

生徒が落ち着いた教室環境の中で学習に集中しやすい雰囲気をつくっています。

黒板周辺の環境
黒板の周りには、余計な掲示物を貼らず、授業に集中しやすくする。

府中第二中学校の教室前面の例

●分かりやすさ⇒指導の工夫

全ての生徒が「分かる授業」を目指し、授業の見通しを視覚的に提示する、絵や写真、ICTを活用するなどをしています。

整理整頓
黒板の周り棚の中は整然と並べるか、カーテン等を取り付け、学習への集中を妨げる視覚情報を少なくする。

●学びやすさ⇒授業規律の確立

授業の基盤であり、生徒の学ぶ心構えを習慣化するため、

①チャイム前着席と学習道具の準備 ②姿勢よくあいさつ

③椅子を引き、姿勢を正して授業に取り組む ④提出物の期限を守るなど、課題を自分なりにやりきるなどを徹底しています。

小学校では、府中第六小学校が教育のユニバーサルデザイン化を校内研修のテーマに設定しています。今後、府中市立学校全校で全ての子供の「分かる」「できる」を目指した教育のユニバーサルデザイン化に一層、取り組んでまいります。

子供たちに「学ぶ喜び」の感じられる教育環境の実現に向けて～合理的配慮～

障害のある子供たちに「学ぶ喜び」が感じられる教育環境の構築を目指して、府中市教育委員会では、支援員配置による人的配慮、拡大読書器や車椅子対応の机等の教材・教具整備による配慮、また、自閉症やそれに類するもので、意思の疎通や対人関係づくりの困難さの改善・克服を目指した教室・学級の設置などの教育環境の充実に向けて計画しています。

計画の進捗等については、教育委員会だよりを通してお知らせいたします。

平成27年度 全国学力・学習状況調査結果の公表について

趣 旨

文部科学省は「全国学力・学習状況調査」について、昨年度から市町村教育委員会が当該市町村における公立学校全体の結果について公表することを可能といたしました。府中市教育委員会は、児童・生徒の学力のさらなる向上のためには、児童・生徒の実態に基づき課題等を明らかにし、その上で改善のための方策を具体的に描くことが重要であると捉えております。また、改善の取組は、学校だけが行うのではなく、家庭と一体となり地域とともに行うことが必要であり、教育委員会は、学校、家庭、地域の「学力向上」に関わる改善の方策を支援するための施策に取り組むことが重要であると考えております。そのためには教育委員会及び学校が、保護者や学校関係者に説明責任を果たさなければならないと考えております。以上の考えから、教育委員会は、同調査の結果を以下のとおり公表することといたしました。

留意事項

全国学力・学習状況調査は、幅広く児童・生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施されていますが、実施教科が「国語」「算数・数学」「理科」の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面にすぎないことにご留意ください。

結果の活用

府中市教育委員会が公表する本調査の結果においては、国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B、理科の平均正答率等の数値を示していますが、平均正答率だけではなく、児童（生徒）質問紙調査との関連など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要です。また個々の設問などに着目して学習指導上の課題を把握、分析し、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることが重要です。

紙面の関係上、ここでは公表資料から一部抜粋し掲載しております。府中市教育委員会ホームページに公表資料を掲載しておりますのでそちらもご覧ください。同調査の結果に関する公表内容をご覧いただき、児童・生徒の学力向上への一層のご理解とご協力の程をお願い申し上げます。

1 教科に関する調査問題の趣旨

国語 A	主として知識に関する問題	【主として知識に関する問題】 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題（身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できることが望ましい知識・技能など）
算数・数学 A		
国語 B	主として活用に関する問題	【主として活用に関する問題】 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題（知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容）
算数・数学 B		
理科	主として知識に関する問題と主として活用に関する問題を一体的に出題	

2 教科に関する調査結果から読み取れること

教科に関する調査結果から読み取ることができる「定着していると捉えられる事項」と「課題となる事項」について

教科	小 学 校	
	定着していると捉えられる事項	課題となる事項
国語	○目的に応じて中心となる語や文を捉える力が身に付いている。	○文の中の主語を捉えることに課題がある。
算数	○円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることを理解している。	○示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる。
理科	○熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を記述できる。	○メダカの雌雄を見分ける方法の理解に課題がある。

教科	中 学 校	
	定着していると捉えられる事項	課題となる事項
国語	○伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える力が身に付いている。	○手紙の書き方を理解して書くことに課題がある。
数学	○起こり得る場合を順序よく整理し、場合の数を求めることができる。	○二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることへの理解に課題がある。
理科	○見出した問題を基に、適切な課題を設定することができる。	○背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことへの理解に課題がある。

3 児童（生徒）質問紙調査結果と教科に関する調査結果との関連から読み取れること

児童（生徒）質問紙の回答状況と教科に関する調査結果とのクロス集計から見られる関係（傾向）について

小中学校共通	
学習への関心・意欲・態度	○「国語・算数（数学）・理科の授業がよく分かる」と回答する児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。
学習時間等	○「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答する児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。
読書	○「読書が好きである」と回答する児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。
学校生活等	○「学校に行くのが楽しい」と回答する児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。
基本的生活習慣	○「普段（月～金曜日）携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い」と回答する児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。
家庭でのコミュニケーション等	○「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」と回答する児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。
地域との関わり	○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答する児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。

4 学力向上を図るための学校・家庭・地域・市教育委員会の取組

今後の取組（課題解決に向けた学校・家庭・地域・教育委員会の役割）	学校	○児童が「できる」「分かる」と実感できる授業の工夫 ○基礎基本の定着の計画的な実施 ○問題解決型の授業の工夫 ○学習規律の確立
	家庭	○基本的生活習慣を確立させる。 ○家庭学習の環境を整える。 ○学校での出来事などについて家庭で話題とする。
	地域	○学校行事や道徳授業地区公開講座に参加する。 ○地域防災訓練、伝統文化の継承、見守り活動、各種学校支援などコミュニティ・スクールとしての取組に参画する。
	教育委員会	○基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力の育成⇒学校における授業改善への指導・助言 ○義務教育9年間での目指す子供像の実現⇒小中連携、一貫教育の推進・学校の取組の支援 ○家庭学習の一層の充実⇒家庭学習啓発資料の作成 ○学校・家庭・地域が連携する学力向上の取組の具現化 ⇒コミュニティ・スクールの機能の活用についての助言

5 府中市教育委員会ホームページに掲載した調査結果（例）

例 小学校 平均正答率 単位：%

国語 A	平均正答率	国語 B	平均正答率	算数 A	平均正答率	算数 B	平均正答率	理科	平均正答率
府中市	70.6	府中市	67.1	府中市	78.2	府中市	47.4	府中市	62.8
東京都	72.3	東京都	66.5	東京都	77.4	東京都	47.8	東京都	62.4
全国	70.0	全国	65.4	全国	75.2	全国	45.0	全国	60.8

例 中学校 平均正答率 単位：%

国語 A	平均正答率	国語 B	平均正答率	数学 A	平均正答率	数学 B	平均正答率	理科	平均正答率
府中市	78.4	府中市	69.0	府中市	68.0	府中市	46.1	府中市	52.9
東京都	77.2	東京都	67.0	東京都	66.3	東京都	44.0	東京都	52.5
全国	75.8	全国	65.8	全国	64.4	全国	41.6	全国	53.0

例 児童 質問紙クロス集計 単位：%

朝食を毎日食べていますか（1）

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
1 している	72.0	69.1	79.6	48.8	64.3
2 どちらかといえばしている	61.2	55.1	70.2	39.2	53.1
3 あまりしていない	53.4	40.0	61.4	28.5	43.6
4 全くしていない	49.5	38.5	52.9	28.7	36.9

例 設問別結果（正答率） 単位：%

設問番号	国語 A 出題の趣旨	正答率		
		府中市	東京都	全国
1-1	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	98.2	97.6	97.5
1-2		96.6	96.3	96.0
1-3		92.9	93.2	92.5
1-1	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	54.7	58.6	58.4
1-2		75.9	79.2	76.5
1-3		73.5	76.4	74.9
2-1	文の中における主語を捉える	46.8	55.3	53.1
	以下続く			